不思議現象に対する態度と科学観・自然観との関連 2

不思議現象に対する態度 (22)

○川上正浩¹・小城英子²・坂田浩之¹

(¹大阪樟蔭女子大学心理学部・²聖心女子大学文学部)

キーワード: 不思議現象 科学観 自然観

Relations between Attitudes towards Paranormal Phenomena and View on Science and Nature 2

Attitudes towards Paranormal Phenomena (22)

Masahiro KAWAKAMI¹, Eiko KOSHIRO² and Hiroyuki SAKATA¹

(¹Faculty of Psychology, Osaka Shoin Women's Univ., ²Faculty of Liberal Arts, University of the Sacred Heart)

Key words: Paranormal Phenomena, View on Science, View on Nature

目 的

心霊現象や占い、あるいは UFO や超能力など、現在の科学ではその存在や効果が立証されないが人々に信じられていることのある現象を“不思議現象”と呼ぶ(菊池, 1997)。こうした不思議現象に対する態度を測定するため、小城・坂田・川上(2008)は、6つの下位尺度からなる APple を提案している。“科学で説明できない”ことが不思議現象の定義となっている以上、“不思議”の概念は“科学”の概念と対立すると想定される。川上・小城・坂田(2008)は、大学生の科学観・自然観を測定する尺度の構成を試み、この科学観・自然観尺度を用いて川上・小城・坂田(2009a)は、科学観・自然観と不思議現象に対する態度尺度(APple)との関連を検討した。その結果、不思議現象に対する態度と、科学観・自然観との間には、特に自然観との間に弱い相関のみが示された。しかし、この結果に関しては、科学観・自然観尺度の信頼性もやや低いことが示されており、尺度の信頼性を高めた上での再検討が課題として残されている。

この課題を受け、川上・小城・坂田(2009b)は、川上他(2008)の科学観・自然観尺度を再構築することを目指し、26項目からなるよりシンプルな科学観・自然観尺度を構成している。そこで本研究では、川上他(2009a)の科学観・自然観尺度を用い、これと、同一の調査対象者の不思議現象に対する態度尺度(APple)との関連を、あらためて検討することを目的とする。

方 法

調査対象: 愛知県N大学に所属する学生 100 名(男性 38 名, 女性 62 名, 平均年齢 20.8 歳: $SD = 1.9$)であった。

調査時期: 2009 年 9 月に調査は実施された。

質問紙: ①不思議現象に対する態度尺度 55 項目(小城他, 2008)。“占い・呪術嗜好性”, “スピリチュアリティ信奉”, “娯楽的享受”, “懐疑”, “恐怖”, “霊体験”の 6 つの下位尺度によって構成される。5 件法。②科学観・自然観尺度 26 項目(川

上他, 2009)。“人智を超えた自然”, “癒す自然”, “保護を求める自然”, “未来を築く科学”, “リスクのある科学”, “脅威を与える科学”の 6 つの下位尺度によって構成される。5 件法。なお、質問紙構成上、それぞれの質問紙冊子には他の項目も別ページとして含まれていたが、それらの結果については本報告では言及しない。

調査方法: 調査は心理学系授業におけるコースクレジットとして授業内に実施された。5 日間の集中講義中の異なる 2 日間に、それぞれ APple と科学観・自然観とが測定された。

結果と考察

APple については、小城他(2008)に倣い、6 つの下位尺度得点を算出した。各下位尺度の信頼性係数は.636～.913 であり、尺度は信頼に足るものであると判断された。科学観・自然観尺度については、川上他(2009)に倣い、6 つの下位尺度得点を算出した。各下位尺度の信頼性係数は.569～.807 であった。

APple と科学観・自然観尺度とのそれぞれの下位尺度間の相関係数(Pearson)を算出した(Table 1)。“占い・呪術嗜好性”が強いと、自然を癒すものと捉える傾向が窺える。また“スピリチュアリティ信奉”が強いと、自然を癒すもの、保護が必要なものであると考える一方で、科学に対しては脅威を感じる態度が見て取れる。このように、不思議現象に対して親和的な態度は、自然に対して肯定的である一方で、科学に対しては危惧を持つ考え方と整合的であると言える。懐疑的な傾向は、自然が保護を求めるとする考え方を持ちにくくすることも示された。また、霊体験を経験している程度が高いほど、“人智を超えた自然”観が弱いことも示されている。“人智を超えた自然”は、自然が人間にとって脅威を与える存在であるとする態度であり、この相関の解釈には、“何を自然と捉えているのか”が重要となると考えられる。

今後、不思議現象に対する態度と科学観・自然観との関係について、性差も含めたより詳細な検討が望まれる。

Table 1 不思議現象に対する態度(APple:小城他, 2008)と科学観・自然観(川上他, 2009)との相関

	占い・呪術嗜好性	スピリチュアリティ信奉	娯楽的享受	懐疑	恐怖	霊体験
未来を築く科学	-.115	-.150	.126	.176	.115	-.088
リスクのある科学	-.030	.009	.030	-.110	.004	-.098
脅威を与える科学	.207	.278 *	.068	-.118	.208	.025
人智を超えた自然	-.105	.104	.013	-.007	-.141	-.278 *
癒す自然	.245 *	.326 **	-.002	-.165	.002	.042
保護を求める自然	.182	.230 *	.161	-.419 **	.016	-.028

* $p < .05$, ** $p < .01$